



# SNSでつながり深め リンゴの味を追求

工藤晃央さん(42)  
青森県・弘前教会

リンゴの生産量日本一を誇る青森県。中でも、弘前市を中心とした中南地域は県内トップの栽培面積を有し、工藤晃央さんが営む「てるてるファーム」も、この地にある。総面積は四ヘクタール。東京ドームとほぼ同じ広さだ。

「てるてるファーム」は、祖父(喜代治・享年93)が一九五〇年に開設。父親(祐司・68)へと継承され、昨年四月に工藤さんが代表に就いた。元々、跡を継ぐ気はなかったが、父親が脳卒中で倒れたとき、「ファームをこのまま終わらせたくない」と、三代目代表になる決心をした。

工藤さんの農園では夏から秋にかけて、味や食感、色などが異なる十品種ほどを栽培している。「色の付き具合や艶の有無で食べ頃の時期を判断し、お客さんのニーズに合わせて出荷しています。それができるような情報に気をつけています」。これまで、SNSを活用し、大きな果実を实らせる農園や、有機栽培を進めている農園などにつながる努力をしてきた。県内外を問わず直接訪ね、栽培方法や使っている肥料、土壌の状態を見聞きして、自農園での取り組みに生かすこともある。

今では、ワイン生産者や他種の果物を作る農家とも関係を築き、他の果物の栽培も始めた。地球温暖化の影響で、将来的に安定した収量が得られなくなるのを見越し、他の果物で収益を補填したいとの判断からだ。昨年は桃とシャインマスカットを収穫できた。

ネットワークは広がり、今では農業を始めようとする人や農家の若い世代から連絡をもらい、見学の依頼もあるという。「若い人たちの農業に対する関心が高まってきていると感じます。その思いを大切にして農業を盛り上げたい」と熱く語る。こうした発想には、立正佼成会弘前教会で学んだ「縁を大切にする」精神がある。「てるてるファーム」を法人化し、より多くの人にリンゴの魅力を伝えるとともに、農業従事者を育成するの工藤さんの夢だ。「今は、そのための勉強の時期」。そう言って、たわわに実ったリンゴの木に目を向けた。

てるてるファーム  
〒036-8247  
青森県弘前市大字大開  
3-8-15  
電話 090-5232-9659



\*立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」

<https://rikkanokai.jp/community/>

2月1日から上記ウェブサイトでもこの記事がご覧になれます。